

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

“おおだて”の歴史・文化と森林資源の魅力をつなぐ地域活性化計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

秋田県及び秋田県大館市

3 地域再生計画の区域

秋田県大館市の全域

4 地域再生計画の目標

4 - 1 地域の現況

大館市は北東北三県の中心に位置し、秋田県内陸北部出羽山地を縫って流れる米代川と長木川の清流沿いに開けた大館盆地にあり、東側は鹿角市と小坂町に、西側は藤里町、南側は北秋田市、北側は青森県に接している。青森県との県境近くにある矢立峠付近には樹齢300年を超える天然秋田スギの風景林、市北部には国指定天然記念物の長走風穴高山植物群生や芝谷湿原植物群生、さらには世界自然遺産である白神山地に属する田代岳では、9合目付近の湿原に120以上の池塘が散在し、多くの高山植物が咲き誇る優れた景勝地を有している。また、忠犬ハチ公のふるさと、比内地鶏、きりたんぼなど全国に有名な特産品や伝統文化を有しており、美しい自然環境と伝統・文化が融合したまちづくりを進めている。なかでも伝統工芸品「大館曲げわっぱ」は地域固有の資源を用いた歴史・文化の象徴である。

そして、それらの「歴史・文化・伝統」を基軸に、歴史的風致を守り育てることの重要性が大切であると考え、「大館市歴史的風致維持向上計画」を平成29年3月に策定している。

本市は行政区域面積913.22km²の内森林面積723.67km²と79%を森林が占め、豊富な森林資源を有する一方で、平成17年6月に大館市、比内町及び田代町の1市2町が合併した際の人口84,701人は令和4年3月には68,782人に減少しており、人口減少期への突入と少子高齢化が進展しており、この傾向は今後さらに加速すると見込まれている。

これを受けて、喫緊の課題である人口減少問題の克服や持続可能な行政体の維持を目指して政策分野ごとの基本目標を定めた「第2期大館市総合戦略」を令和2年3月に策定し、「地域の特性を生かした産業振興（ものづくり）」、「交流人口の拡大と定住促進（物語づくり）」等の戦略を掲げ、本市が将来にわたって持続可能なまちとなるよう取り組むべき重要な戦略と定めている。

4 - 2 地域の課題

第2期大館市総合戦略では「交流人口の拡大とAターン・定住促進（物語づくり）」を目

標に掲げ、「忠犬ハチ公」「比内地鶏」「きりたんぼ」「大館曲げわっぱ」などの既存観光資源の強化や函館市 - 大館市：北秋田市、小坂町 - 仙北市（角館）の3館（3D）との広域観光連携による観光客周遊ルート形成の取り組みもあり、観光客入込数は平成30年度が234万人、令和元年度が253万人と年々増加していたものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う行動自粛の影響もあり令和3年度には124万人と令和元年度と比べおよそ5割落ち込んだ状況にある。

そこで、交流人口拡大による地域経済の活性化と本市産業の稼ぐ力の向上に資するため、大館市の歴史的風致の一つである世界自然遺産、白神山地に属する「田代岳」を新たな観光資源と位置付け、田代岳の麓にある五色湖エリア一帯をロッジでの滞在やグランピングを楽しめる野遊び拠点の滞在地とした野遊びSDGs事業を展開し、アフターコロナ時代においても密を回避した滞在が可能な地域を望む層、登山やアクティビティ体験を望む層など、多彩な層を取り込み安定的な観光客の受入れ地を目指し整備を進めているが、観光滞在型施設の機能向上のためには幹線道路からの安全性の保たれた道路整備が急務となっている。

また、本市は日本三大美林の一つに数えられる「秋田スギ」の主要な産地として、スギ蓄積量日本一を誇る秋田県の中心的地域であり、伝統工芸品「大館曲げわっぱ」や「秋田杉桶樽」は地域固有の資源を用いた歴史・文化の象徴である。市総合戦略では「地域の特性を生かした産業振興（ものづくり）」の目標において本格的な利用期を迎えているスギ人工林などの豊富な森林資源を効率的に循環させることを目標に、産・学・官協働による新たな需要創造や雇用創出、木材製品の価値向上を図り、伝統的な林業地としての復活と林業を軸とした地域産業の成長の実現に向けた取り組みを目指しているところであるが、道路が急カーブや狭あいであることによる木材生産の効率が図れていない状況にある。

4 - 3 計画の目標

こうした状況を踏まえ、地方創生道整備推進交付金により市道と林道を一体的に整備する事で、安全・効率的な道路ネットワークを構築し、地域間のアクセス強化、道路交通の安全強化を図り、市街地からの滞在型観光を推進することで観光客入込数の増加を目指す。

また、林道の整備を実施する事により、林業生産性や生活利便性の向上を図り、林業・木材産業の成長産業化を推進するとともに、森林の持つ公益的機能の持続的な発揮による環境保全を図る。

（目標1）観光客入込数の増加（観光交流の活性化）

年間 124万人（令和3年度） 225万人（令和9年度）

（目標2）大川目元渡団地 森林整備面積の増加（林業、木材産業の振興）

30ha（令和4年度） 46ha（令和9年度）

5 地域再生を図るために行う事業

5 - 1 全体の概要

大館市は一般国道7号、103号や285号などの幹線道路が整備されており、近年は

日本海沿岸東北自動車道が東北縦貫自動車道や大館能代空港に接続されたことから、3つのインターチェンジを有する当市は、隣県に加え首都圏からのアクセスが格段に向上し、工場の新増設や雇用の創出が図られ、経済成長を支えている。しかし、市道や林道の整備が遅れており、幹線道路以後の市道路網は脆弱な状況にある。

そのため、「観光交流施設 秋田犬の里」「曲げわっぱ製作体験」「きりたんぼ作り体験」や歴史まちづくりによる街歩きなどの市中心部で体験できる観光施設と市郊外にある「田代岳」との連携が十分図られていない。また、林道は急こう配、急カーブが多く、幹線道路までの市道が脆弱であることから木材の運搬・搬出の効率が悪い状況にある。

そこで、地方創生道整備推進交付金を活用し、市道岩瀬線、林道大川目元渡線に接続する唯一の市道である「市道越山線」の修繕工事を行うことで林業、観光、生活道路の骨格としての役割を担う道路機能の向上が図れる。

「市道岩瀬線」は基幹ロケット搭載液体ロケットエンジンの燃焼試験場へのアクセス道路としても利用されているが、不安定な法面や狭小箇所が多数あるため、一般車両とのすれ違いが困難な状況となっている。そこで、これらを解消する事により産業用道路として強化、登山客やアクティビティ体験者の利便性・安全性の向上が図れ、登山口までのアクセス時間短縮による多くの観光客を呼び込むことが可能となる。

「林道大川目元渡線」は狭あい、急カーブなどを解消することで、良質な秋田スギを安全に搬出することが可能となるほか、山中に樹齢150年以上の天然秋田スギの林相景観をみることができ、平滝自然観察教育林へのアクセス向上も図られる。

これらを一体的に整備する事により安全・効率的な道路ネットワークを構築し、地域間のアクセス強化による道路利便性を高め、市街地からの滞在型観光を推進することで観光入込客数の増加を目指す。また、アクセス道路を利用した木材の搬出・運搬の効率化を可能とすることで、林業・木材産業の成長産業化を推進する。加えて、道整備の効果により地域特産であるタケノコや山菜採りの機会増加による地域活性化が期待される。

関連事業においては、まちの魅力を高め地域間交流を促進することにより、本市のイメージアップと認知度の向上を図ることから、市道・林道の整備事業と併せた相乗効果による本市への人の流れがつけられる。その結果、持続可能な地域づくりを実現するため、交流人口拡大による地域経済の活性化と本市産業の稼ぐ力の向上、地域製品のブランド化が道の整備事業の政策効果を高めることが期待できる。

5 - 2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 地方創生道整備推進交付金【A3008】

対象となる施設は以下のとおりで、事業開始に係る手続き等を完了している。

なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

・市道：道路法に規定する市道に認定済み。()内は認定年月日

市道岩瀬線 (平成29年10月 4日認定)

市道越山線 (昭和63年 6月21日認定)

・林道：森林法による米代川地域森林計画(令和4年度策定)【秋田県】には令和5年

1月、大館市森林整備計画書（令和4年度策定）【大館市】には令和5年3月に搭載予定。

林道大川目元渡線

[施設の種類 事業主体]

- ・市道 大館市
- ・林道 秋田県

[事業区域]

- ・大館市

[事業期間]

- ・市道 令和5年度～令和9年度
- ・林道 令和5年度～令和9年度

[整備量及び事業費]

- ・市道 5.1km 林道 4.0km
- ・総事業費 1,838,000 千円（うち交付金 919,000 千円）
 - 市道 1,658,000 千円（うち交付金 829,000 千円）
 - 林道 180,000 千円（うち交付金 90,000 千円）

[事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法]

	基準年 (R3)	R5	R6	R7	R8	R9
指標 1 - 1 田代岳登山口までのアクセス時間短縮 大館駅～田代岳登山口	73分	73分	72分	72分	70分	67分
指標 1 - 2 素材(丸太)運送時間短縮 森林整備地～原木市場	37分	37分	37分	35分	35分	34分

毎年度終了後に大館市職員が必要な徴取調査等を行い、速やかに状況を把握する。

[事業が先導的なものであると認められる理由]

（政策間連携）

市道及び林道を一体的に整備することにより、個別に整備する場合に比べて、効率的かつ効果的に交通ネットワークを強化することが可能となり、産業、観光客及び市民の交通の利便性及び安全性を向上するという点で、同時期に事業効果が発現することによる相乗効果があり、地域活性化がさらに期待できる。

なお、市道岩瀬線は大館市国土強靱化地域計画に明記された事業である。

（デジタル社会の形成への寄与）

UAV(ドローン)レーザー測量を行うことにより、従来の測量に比べて、測定やデー

夕収集にかかる時間を大幅に削減することで工事着手までの時間を短縮し、効果の促進を図ることができる。

また、ICTを活用した建設機械の推進により、林業専用道開設のコスト縮減や路盤工等における締め固め作業の無人化により、土工における生産性向上を図っていく。具体的には振動ローラの自動運転を実証することにより、デジタル社会の形成に寄与する事業となっている。

5 - 3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、“おおだて”の歴史・文化と森林資源の魅力を繋ぐ地域活性化計画を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

5 - 3 - 1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5 - 3 - 2 支援措置によらない独自の取り組み

(1) 野遊びSDGs推進事業

内 容 五色湖を拠点に自然と大館の文化・自然を掛け合わせた滞在型観光の創出
実施主体 大館市
実施期間 令和2年度～令和6年度

(2) 大館市歴史的風致維持向上計画

内 容 歴史的な活動、歴史的建造物、その周辺の町並みなどを保全し、保存しながら地域固有の財産を活用した地域活性化を目指す。
事業主体 大館市
実施期間 平成29年度～令和8年度

(3) 広域連携による観光振興事業

内 容 函館・大館・角館(仙北)の3館(3D)との広域観光連携による周遊観光推進事業を基軸とし、広域観光フォーラムを通して広域連携の促進を図る。
事業主体 大館市
実施期間 平成29年度～

(4) ハチ公生誕100年プロジェクト

内 容 渋谷区と忠犬ハチ公を縁としてこれまでも交流促進を務めてきたが、令和5年にハチ公が生誕100年を迎えるにあたり、令和4年に交流促進協定を締結。忠犬ハチ公生誕100年に向け、観光、産業、文化、スポーツなどさまざまな文化の交流促進を図る。

事業主体 大館市
実施期間 令和4年度～

(5) 大館市森林整備事業

内 容 間伐等森林整備と一体的に整備する森林作業道開設に対して補助金を交付する。

実施主体 大館市
実施期間 令和4年4月から令和5年3月(毎年度予算措置)

(6) 森林環境整備事業

内 容 皆伐後の植栽に対して補助金を交付する。

実施主体 大館市
実施期間 令和4年4月から令和5年3月(毎年度予算措置)

(7) 林業成長産業化総合対策事業

内 容 「スマート林業」現場実装普及プログラムを展開しており、次世代通信技術やIoT・AIといった最先端技術を駆使しつつ、地域全体で森林資源調査、原木の生産・流通、再造林など林業活動にフル活用する「デジタル林業」の実践・定着を進め、森林整備促進と川上から川下までのサプライチェーンマネジメントの更なる進化を図る。

実施主体 大館市
実施期間 令和5年4月～令和10年3月

6 計画期間

令和5年度～令和9年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標達成状況については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に大館市が必要な調査を行い、速やかに状況を把握する。

中間評価、事後評価の際には実測調査により評価を行う。

7 - 2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

項目	(基準年度)	令和7年度 (中間年度)	令和9年度 (最終目標)
目標1 観光入込客の増加 (年度毎の観光入込客数)	124万人 (令和3年度)	195万人	225万人
目標2 大川目元渡団地 森林整備面積の増加	30ha (令和4年度)	38ha	46ha

(指標とする数値の収集方法)

項目	収集方法
観光入込客の増加	大館市の公表データ 宿泊数と日帰り客数、温泉施設入浴数の合計
大川目元渡団地 森林整備面積の増加	大館市林政課収集情報より

・目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

7 - 3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

4に示す地域再生計画の目標については、中間評価及び事後評価の内容を、速やかにインターネット(大館市ホームページ)により公表する。